



## 2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年1月31日

上場会社名 日本ライフライン株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 7575 URL <https://www.jll.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 啓介  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理統括部長 (氏名) 江川 毅芳 TEL 03-6711-5200  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無：有  
 決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	42,811	11.8	9,906	17.2	9,944	15.8	7,071	14.5
2024年3月期第3四半期	38,302	△0.5	8,450	6.5	8,586	8.8	6,173	35.0

（注）包括利益 2025年3月期第3四半期 7,632百万円（17.9％） 2024年3月期第3四半期 6,476百万円（40.9％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	99.37	—
2024年3月期第3四半期	80.70	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	70,967	57,576	81.1
2024年3月期	73,509	58,102	79.0

（参考）自己資本 2025年3月期第3四半期 57,576百万円 2024年3月期 58,102百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	42.00	42.00
2025年3月期	—	0.00	—		
2025年3月期（予想）				53.00	53.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日（2025年1月31日）公表いたしました「業績予想および配当予想の修正のお知らせ」をご覧ください。

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	56,800	10.5	12,600	15.7	12,600	19.1	9,200	22.4	129.78

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2025年1月31日）公表いたしました「業績予想および配当予想の修正のお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期3Q	75,758,470株	2024年3月期	75,758,470株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	5,659,418株	2024年3月期	829,200株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期3Q	71,155,223株	2024年3月期3Q	76,496,250株

(注) 当社は、役員報酬BIP信託を導入しており、信託が所有する当社株式は「(4) 発行済株式数 (普通株式)」において自己株式として取り扱っております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況.....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況.....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
3. その他 .....	9
生産、受注及び販売の状況 .....	9

## 1. 経営成績等の概況

## (1) 当四半期の経営成績の概況

文中の将来に関する事項は、当第3 四半期連結会計期間末現在において当社グループが判断したものであります。

## (経営環境について)

当社グループは主に国内の総合病院等の顧客向けに心臓領域を中心とする医療機器事業を展開しています。日本の医療需要は、人口の高齢化に伴い増加しており、今後もそのトレンドは継続することが予想されています。一方、医療供給は逼迫しており、各種医療サービスの持続可能性が懸念されています。国は、現行の医療システムが医療従事者の慢性的な長時間労働に依存している状況を改善するため、「医師の働き方改革」を推進しています。

このような状況において、医療機器業界で厳しい競争に勝ち残るには、単に治療効果の高い製品を提供するだけでなく、持続可能な医療を実現するための様々な課題の解決にも貢献していく必要があります。当社グループは、メーカーと商社の2つの機能を併せ持つ強みを活かし、柔軟かつ強靱なプロダクト・ポートフォリオを構築することで、これに取り組んでいます。

## (事業の状況について)

当第3 四半期連結累計期間における業績は、売上高は前年同期比11.8%増加、売上総利益は同11.2%増加、営業利益は同17.2%増加、親会社株主に帰属する四半期純利益は同14.5%増加となりました。2024年6月に実施された保険償還価格の改定によるマイナス影響を受けながらも、売上高および各段階利益は第3 四半期連結累計期間での過去最高を更新しました。業績は期初予想に対しても良好に進捗しており、「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載のとおり、2025年1月31日時点で通期の業績予想を上方修正しております。売上高と各段階利益において二桁成長を達成できた背景としては、中核事業におけるコア製品群の市場拡大および競争力強化の各施策が奏功したこと、さらに、成長戦略である「新領域の拡大」が進展したことなどが挙げられます。

中核事業については、EP/アブレーションでは、ベースとなる心房細動のアブレーション症例数が前年同期比で10%程度増加しました。これを背景に、追加モデルの導入で競争力強化を図った心腔内除細動カテーテルの販売が拡大しました。中期で成長ドライバーと位置付けている大腿静脈用止血デバイスの新規取扱い施設の開拓も順調に進みました。さらに、心血管関連ではFrozen Elephant Trunkの市場が拡大しており、市場トレンドに合わせたモデルの拡販に注力したことで売上高を順調に拡大しました。

また、「新領域の拡大」では、脳血管関連および消化器ともに上市した製品の市場への浸透がさらに進み、当第3 四半期連結会計期間においても、前年同期比で高い成長率を維持しました。

販売費及び一般管理費は、給与水準の引上げや従業員向けの業績連動賞与の増加などによる人件費の増加や、前連結会計年度に導入した新基幹システムに係る減価償却費等の増加があったほか、一過性の貸倒引当金繰入等の発生がありました。これらの費用の増加は、販売拡大による利益の増加でカバーできており、当第3 四半期連結累計期間の営業利益は前年同期から1,456百万円増加し、営業利益率は23.1%と高い水準となりました。

なお、外国為替相場の変動が当社の業績に与える影響は限定的であります。これは、当社の商品仕入の約70%が円建てであること、売上原価の計算に移動平均法を用いており、一時的な調達コストの上昇が生じてもその影響は長期間にわたって平準化されること等によります。

## (業績について)

当第3 四半期連結累計期間の業績は以下のとおりです。

(単位：百万円)

区分	前第3 四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)		当第3 四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)		増減	増減率 (%)
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)		
① 売上高	38,302	100.0	42,811	100.0	4,508	11.8
② 売上総利益	23,305	60.8	25,910	60.5	2,605	11.2
③ 営業利益	8,450	22.1	9,906	23.1	1,456	17.2
④ 経常利益	8,586	22.4	9,944	23.2	1,357	15.8
⑤ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,173	16.1	7,071	16.5	897	14.5

## ① 売上高

売上高は42,811百万円（前年同期比+11.8%）となりました。詳細は後段の「品目別売上高」に記載していません。

## ② 売上総利益

売上総利益は25,910百万円（前年同期比+11.2%）となりました。保険償還価格の改定に伴い、販売単価は多くの品目で下落しましたが、中核事業のEP/アブレーションや心血管関連における自社製品の販売数量の増加によりカバーしました。自社製品比率は、仕入商品の販売拡大により57.6%（前年同期比△1.4pt）となりました。脳血管関連の各製品やEP/アブレーションにおける大腿静脈用止血デバイスなどの戦略的な仕入商品の売上高が主に増加しました。その結果、売上総利益率は60.5%（前年同期比△0.3pt）となりました。

## ③ 営業利益

営業利益は9,906百万円（前年同期比+17.2%）となりました。販売費及び一般管理費は、1,148百万円増加しました。主な増加要因は以下のとおりです。

- 給与水準の引上げや業績連動賞与の引当による人件費の増加
- 新基幹システム等に係るIT関連費や減価償却費の増加
- 販売関連費の増加
- 取引先の手形取引停止処分による貸倒引当金繰入の増加

以上の結果、営業利益率は23.1%（前年同期比+1.0pt）となりました。

## ④ 経常利益

経常利益は9,944百万円（前年同期比+15.8%）となりました。営業外収益として、受取利息や受取配当金などで262百万円を計上しました。営業外費用として、自己株式の公開買付けに伴う支払手数料や投資有価証券評価損などで224百万円を計上しました。

## ⑤ 親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益は7,071百万円（前年同期比+14.5%）となりました。法人税等の負担率は28.8%となりました。

(品目別売上高)

(単位：百万円)

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	増減	増減率 (%)
リズムデバイス	10,144	10,119	△25	△0.2
EP/アブレーション	18,154	21,352	3,198	17.6
心血管関連	8,362	8,995	633	7.6
脳血管関連	622	1,291	668	107.4
消化器	1,018	1,051	33	3.3
合計	38,302	42,811	4,508	11.8

※各品目区分に分類される主たる商品は以下のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、従来の「心血管関連」に含まれていた「脳血管関連」を独立した新区分に変更しております。前第3四半期連結累計期間との比較は、変更後の区分に組み替えた数値で算出しております。また、「心血管関連」の主たる商品に記載していた「オープンステントグラフト」は、「Frozen Elephant Trunk」に名称を変更しております。

リズムデバイス	心臓ペースメーカ、T-ICD（経静脈植込み型除細動器）、S-ICD（完全皮下植込み型除細動器）、CRT-P（両心室ペースメーカ）、CRT-D（除細動機能付き両心室ペースメーカ）、AED（自動体外式除細動器）
EP/アブレーション	EP（電気生理用）カテーテル、アブレーションカテーテル、内視鏡レーザーアブレーションカテーテル、心腔内除細動カテーテル、食道温モニタリングカテーテル、スティラブルシース、大腿静脈用止血デバイス
心血管関連	人工血管、Frozen Elephant Trunk、ステントグラフト、心房中隔欠損閉鎖器具
脳血管関連	塞栓用コイル、血栓吸引カテーテル、マイクロカテーテル、ステントリトリバー
消化器	胆管チューブステント、胆管拡張バルーン、胆道鏡システム、内視鏡ガイドワイヤー、大腸用ステント、胃・十二指腸用ステント、肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針

## ① リズムデバイス

リズムデバイスの売上高は、10,119百万円（前年同期比△0.2%）となりました。保険償還価格の改定により販売単価は下落しました。さらに、ペースメーカーについては、他社のリードスペースメーカーが新規植込み症例においてシェアを拡大した影響を受け、特に第3四半期連結会計期間以降、低調に推移しました。一方、コア製品であるS-ICDは、医師向けの植込みトレーニング企画等の販促が奏功し、好調に推移しました。

## ② EP/アブレーション

EP/アブレーションの売上高は、21,352百万円（前年同期比+17.6%）となり、第3四半期連結累計期間で過去最高を更新しました。心房細動のアブレーション症例数が前年同期比で10%程度増加したことを背景に、コア製品の心腔内除細動カテーテル等が伸長しました。さらに、中期での成長ドライバーと位置付けている大腿静脈用止血デバイスも、新規採用施設を順調に増やした結果、売上を大幅に拡大しました。

## ③ 心血管関連

心血管関連の売上高は、8,995百万円（前年同期比+7.6%）となり、第3四半期連結累計期間で過去最高を更新しました。コア製品のFrozen Elephant Trunkは、他社の新規参入がある中でも市場拡大が追い風となり、好調に推移しました。そのほか、人工血管、腹部用ステントグラフト、心房中隔欠損閉鎖器具についても、販売は総じて堅調に推移しました。

## ④ 脳血管関連

脳血管関連の売上高は、1,291百万円（前年同期比+107.4%）となりました。塞栓用コイルおよび血栓吸引カテーテルは、継続的に追加モデルを導入して顧客への訴求力アップを図っており、市場への浸透が進みました。そのほか、第2四半期連結会計期間に上市したステントリトリーバーも、収益に寄与しました。

## ⑤ 消化器

消化器の売上高は、1,051百万円（前年同期比+3.3%）となりました。前連結会計年度で終了したコロナリー・インターベンション事業を除いたベースでの売上高は948百万円（前年同期比+38.9%）となりました。胆膵領域では、主力製品の胆管チューブステントが伸長しました。さらに、消化管領域では、大腸用ステントや胃・十二指腸用ステントで製品改良を行ったことが奏功し、市場シェアが拡大しました。

## (2) 当四半期の財政状態の概況

(四半期連結貸借対照表に関する分析)

## ① 資産

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末に比べ1,882百万円減少し、40,988百万円となりました。これは主として、棚卸資産が1,879百万円増加した一方で、自己株式の取得、法人税等の支払いならびに配当金の支払い等により現金及び預金が4,778百万円減少したことによるものであります。

また、固定資産は前連結会計年度末に比べ658百万円減少し、29,979百万円となりました。これは主として、貸倒引当金が214百万円増加し、投資その他の資産のうち「その他」に含まれている繰延税金資産が322百万円減少したことによるものであります。

以上の結果、資産合計は前連結会計年度末から2,541百万円減少し、70,967百万円となりました。

## ② 負債

当第3四半期連結会計期間末の負債につきましては、流動負債が前連結会計年度末に比べ1,761百万円減少し、12,413百万円となりました。これは主として、未払法人税等が595百万円、賞与引当金が532百万円、ならびに1年以内返済予定の長期借入金が261百万円減少したことによるものであります。

また、固定負債は前連結会計年度末に比べ252百万円減少し、978百万円となりました。これは主として、その他に含まれているリース負債が155百万円減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は前連結会計年度末から2,014百万円減少し、13,391百万円となりました。

## ③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ526百万円減少し、57,576百万円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純利益を7,071百万円計上した一方で、剰余金の配当を3,154百万円実施したこと、ならびに自己株式が5,027百万円増加したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、最新の業績見通しを精査した結果、2024年5月1日に公表した2025年3月期の業績予想を下記の通り修正しました。

2025年3月期 通期連結業績予想 (2024年4月1日～2025年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A) (2024年5月1日発表)	百万円 54,000	百万円 11,200	百万円 11,000	百万円 8,000	円 銭 113.58
今回発表予想 (B)	56,800	12,600	12,600	9,200	129.78
増減額 (B-A)	2,800	1,400	1,600	1,200	—
増減率 (%)	5.2	12.5	14.5	15.0	—
(ご参考)前期実績 (2024年3月期)	51,384	10,892	10,581	7,515	98.73

当第3四半期連結累計期間の業績は、2024年5月1日に公表した期初の予想に対して、売上高は約5%、営業利益以下の各段階利益は13~17%上回る水準で推移しております。その背景として、心房細動のアブレーション症例数が期初予想の年8%増加をやや上回る年10%ペース(推定値)で増加したこと、さらに、脳血管関連の製品や大腿静脈用止血デバイスの販売が期初予想を約20%上回るペースで進捗したことなどが主に挙げられます。

上記の状況と最新の業績動向を踏まえ、第4四半期連結会計期間の見通しについて精査を行いました。その結果、通期の業績予想について、売上高および各段階利益を上方修正することといたしました。

※ 上記の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,669	7,890
受取手形及び売掛金	13,283	14,229
棚卸資産	15,154	17,034
その他	1,763	1,834
流動資産合計	42,871	40,988
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,086	7,071
その他(純額)	6,348	6,667
有形固定資産合計	13,434	13,739
無形固定資産	2,292	2,013
投資その他の資産		
投資有価証券	7,601	7,610
長期貸付金	2,719	2,778
退職給付に係る資産	69	79
その他	6,075	5,528
貸倒引当金	△1,555	△1,770
投資その他の資産合計	14,910	14,225
固定資産合計	30,638	29,979
資産合計	73,509	70,967
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,254	3,408
短期借入金	3,500	3,500
1年内返済予定の長期借入金	416	155
未払金	1,178	993
未払法人税等	1,750	1,155
賞与引当金	1,794	1,262
役員賞与引当金	80	81
その他	1,200	1,857
流動負債合計	14,175	12,413
固定負債		
長期借入金	120	30
役員株式報酬引当金	163	154
その他	947	793
固定負債合計	1,231	978
負債合計	15,406	13,391
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,115	2,115
資本剰余金	8,866	8,888
利益剰余金	47,291	51,208
自己株式	△756	△5,784
株主資本合計	57,516	56,428
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△34	161
為替換算調整勘定	348	740
退職給付に係る調整累計額	271	244
その他の包括利益累計額合計	585	1,147
純資産合計	58,102	57,576
負債純資産合計	73,509	70,967



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	38,302	42,811
売上原価	14,997	16,901
売上総利益	23,305	25,910
販売費及び一般管理費	14,854	16,003
営業利益	8,450	9,906
営業外収益		
受取利息	101	192
受取配当金	25	34
為替差益	37	21
事業譲渡益	42	—
投資有価証券評価益	20	—
その他	28	13
営業外収益合計	256	262
営業外費用		
支払利息	20	27
投資有価証券評価損	—	69
貸倒引当金繰入額	20	15
支払手数料	28	68
その他	49	43
営業外費用合計	119	224
経常利益	8,586	9,944
特別利益		
固定資産売却益	6	8
投資有価証券売却益	6	20
特別利益合計	13	28
特別損失		
固定資産売却損	—	3
固定資産除却損	14	32
特別損失合計	14	36
税金等調整前四半期純利益	8,585	9,937
法人税、住民税及び事業税	2,053	2,540
法人税等調整額	358	325
法人税等合計	2,412	2,866
四半期純利益	6,173	7,071
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,173	7,071

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	6,173	7,071
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	138	196
為替換算調整勘定	149	391
退職給付に係る調整額	15	△26
その他の包括利益合計	303	561
四半期包括利益	6,476	7,632
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,476	7,632

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

当社は、2024年5月1日開催の取締役会決議に基づく自己株式の公開買付けにより、自己株式5,000,100株の取得を行っております。公開買付けによる自己株式取得等の結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が5,027百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末の自己株式は5,784百万円となっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	1,050百万円	1,316百万円

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

当社及び連結子会社の営む事業は医療用機器の製造及び販売業であり、また、主な販売先は国内に所在しております。当社及び連結子会社の構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象として報告セグメントとすべきものはありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

当社及び連結子会社の営む事業は医療用機器の製造及び販売業であり、また、主な販売先は国内に所在しております。当社及び連結子会社の構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象として報告セグメントとすべきものはありません。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分（その他の包括利益に対する課税）に関する改正については、2022年改正会計基準第20－3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。）第65－2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

## 3. その他

生産、受注及び販売の状況

## ① 生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績を商品区分別に示すと次のとおりであり、著しい変動はありません。

(単位：百万円)

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	増減率 (%)
リズムデバイス	9	14	46.1
EP/アブレーション	4,707	5,132	9.0
心血管関連	962	1,210	25.7
消化器	447	594	32.8
合計	6,128	6,951	13.4

(注) 1. 金額は製造原価によっております。

2. 第1四半期連結会計期間より、事業区分に「脳血管関連」を追加しておりますが、「脳血管関連」の生産実績は前期、当期ともに発生していないため表示を省略しております。

## ② 受注実績

当社グループの事業形態は、原則として受注残高が発生しないため、記載を省略しております。

## ③ 販売実績

販売実績につきましては、添付資料2ページ「1. 経営成績等の概況(1) 当四半期の経営成績の概況」をご覧ください。